

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 3 7	独立行政法人酒類総合研究所
題名（原題／訳）	
Sex differences in the central nervous system actions of ethanol. エタノールの中樞神経系での作用における性差	
執筆者	
Devaud LL, Alele P, Ritu C.	
掲載誌（番号又は発行年月日）	
Crit Rev Neurobiol. 2003;15(1):41-59	
キーワード	
性差、エタノール、中樞神経系	
要 旨	
<p>長年の間、女性はホルモン周期の影響を受けやすい為に、研究対象からはずされていた。しかし、女性も研究対象として考える必要がある。これまでにエタノールの作用における性差について、分子生物学的に、行動的に有意なレベルで異なることが発見されており、このレビューではエタノールの中樞神経系に与える作用の性差を中心的に述べている。エタノールの依存性と禁断症状における研究でエタノールの禁断症状からの回復は雌ラットの方がより短い時間でおこると考えられている。更に GABA A レセプター機能がエタノール退薬症状時の雌で雄とは異なっていた。また、これまでにエタノールの探索行動や飲酒行動にも有意な性差があることが報告されている。本研究ではエタノールが中樞神経系に与える影響の性による差によって脳の構造、またはホルモンの内部環境の点からより詳細に検討することにある。エタノールの摂取量により行動的に細胞的に差があっても矛盾はないと考えられる。現在の研究はエタノールの作用に性差を特徴づけることに焦点が置かれているが、雌がどの様にエタノールに対して中樞神経の応答を調節しているかの統一的概念に結果を統合するに至っていない。これはエタノールの作用が様々な神経伝達物質が関与し、また薬物探索行動からエタノールの多量摂取による神経病理学的変異までを広範囲にわたる複雑な物であるからであると考えられる。しかし、アルコール依存症の治療において男性と女性は異なる方法があるという点に関しても、エタノールの退薬症状時に見られる性差は重要なことである。</p>	